

氏名	柴 真理子 Shiba Mariko
所属 職名	人間文化創成科学研究科文化科学系 教授
学位	博士（学術）（お茶の水女子大学1996）/Ph.D
専門分野	舞踊学・舞踊教育学/ Dance Research and Dance Education
URL	
E-mail	shiba.mariko@ocha.ac.jp

研究者キーワード / Keywords

舞踊運動の体感
感性的コミュニケーション
身体表現
舞踊行動時の脳活動
光トポグラフィー

bodily sensation of dance movement
KANSEI communication
bodily expression
brain function measurement of dance behavior
NIRS

主要業績

舞踊行動の体感に関する日韓比較 “表現文化研究 第10巻第2号 2010年度 神戸大学表現文化研究会 pp. 235-245. 2011.3.
Japan-South Korea comparative experiments about the bodily sensation of dance behavior （柴真理子・南貞鍋・猪崎弥生・李世珍・小堀結香・高田装子・中川由香子）

歩行データベース作成および歩行パターン分析に関する研究 2010.10. 第3章 歩行指導による女子大学生の歩行改善 pp.22-35. (阿久津孝枝・小堀結香・佐藤文音・高田装子・中川由佳子・岡千春) フィールドワーク共同調査開発成果報告書（オムロンヘルスケア）第2年度

舞踊のイメージトレーニングのし易さとNIRSによる脳機能計測の関連 第13回日本光脳機能イメージング研究会 2010.7.（柴真理子・渡辺英寿・岡千春・阿久津孝枝・佐藤文音・小堀結香・高田装子・中川由香子） 第13回日本光脳機能イメージング研究会抄録集 p25.

舞踊鑑賞における脳活動?舞踊専攻生と非専攻生の比較から? 第13回日本光脳機能イメージング研究会 2010.7.（岡千春・柴真理子・渡辺英寿・阿久津孝枝・佐藤文音・小堀結香・高田装子・中川由香子） 第13回日本光脳機能イメージング研究会抄録集 p22.

研究内容 / Research Pursuits

2010年度は、?お茶大の舞踊専攻生と共にソウルへ出張し、韓国芸術総合学校において、両大学の舞踊専攻生を被験者に「舞踊行動の体感に関する日韓比較」に関する実験を実施し、同国人と踊る時と異国人と踊る時の体感について考察した。?脳科学者の協力を得て、舞踊のイメージトレーニングの条件（音楽の有無、身体のゆれの有無など）を変えて、それぞれの条件時の被験者の脳活動を光トポグラフィーで捉え、舞踊のイメージトレーニングの特性についての考察を行った。?女子学生の歩行指導について、舞踊の身体の使い方から導きだしたポイントになる指導言語による指導と手引き指導を行い、その効果について検証した。

■ 教育内容 / Educational Pursuits

学部教育：舞踊教育学コースの専門科目「舞踊学概論」「臨床舞踊論実験演習」を担当。前者では舞踊の歴史を中心に講義を行い、後者では体感に関する実験、文献講読、グループ討議の発表などを通して、人間の存在を表現する舞踊の構造、またそのような構造を有する舞踊の教育的価値やセラピューティックな価値についての学生の理解が深まった。また教職科目の「幼小体育実技（舞踊教育法実習初等教育）」では、身体表現の指導力とは何かを理解し、指導力を身につけるために、数人のグループに分かれて言葉かけの実習に力を入れた。また毎時間の授業記録を求めた。その結果、授業記録から、自らが創って踊る力を指導にどのように生かしていけばよいのかを考える態度が養われていることがうかがわれた。大学院教育：ゼミの院生は大学院前期課程6名、後期課程3名であった。各学生の研究テーマに沿った指導を行い、平成22年度は2名が修士論文を提出、1名が博士論文を提出して博士の学位を取得した。

■ 研究計画

1、韓国芸術総合学校（国立大学）舞踊学部の南教授と2008年度から「創造的身体表現活動による態度変容と異文化理解—文化に固有な舞踊運動の体感を通して」というテーマで共同研究を実施している。それと同時に、両大学の卒業公演で、お互いに作品を出し合うことを始めている。将来的にも舞踊実践とその実践も基づく研究を共同で進めていきたいと考える。2、自己理解・他者理解としての舞踊の特質を、体感・鏡像・場といった概念によって考察し、そこから舞踊教育、ダンスセラピーなどの指導における臨床的な舞踊の実践的研究を内容とした著書を執筆する。3、工学者と共同で、舞踊における身体知、及び歩行に関する実験を継続している。4、脳科学者との舞踊と脳科学に関する共同研究は3年を経過し、光トポグラフィーはどのような舞踊活動時の脳活動の特徴をどのように捉えることができるかが少しずつ明らかになってきている。今後は、実験計画を十分に練り上げ、脳科学者との共同研究を推進したい。

■ メッセージ

本学の舞踊教育学コースは、日本の国立大学法人で舞踊教育学を専門に学ぶことのできる唯一のコースです。舞踊に関する様々な知識と舞踊実技をバランスよく学びます。舞踊に対する知識が、舞踊創作や鑑賞の力を養い、また自らの舞踊経験が、舞踊に対する学問的なまなざしを拓きます。受験生はきっと「上手になりたい」という強い思いをもっていると思います。しかし、上手くなるには創る技術・踊る技術だけを追うのではなく、「なぜ、上手になりたいのか」「上手くなるとはどういうことなのか」という疑問を持つことが大切です。そのことを考えていくプロセスは、自分自身の向上のみならず、将来、指導者として指導する際の手がかりを得ていく過程でもあります。創り・踊りつつ、自分の舞踊活動に問いを立てそのこたえを探究する、そして、その探究が次の創作への力となる、このダイナミックな循環、この醍醐味を体感しませんか。